

慶 祝

伝灯奉告

高田
本山
だより



105



新法主殿からのメッセージ

伝灯奉告法会を

迎えるに際して

高田派二十五世 常磐井慈祥法主

早いもので、二〇一三年十月二十七日に本山専修寺第二十五世の継承式を終えてから、もう二年と四ヶ月が経ちました。

幸運なことにも、「新法主の試運転期間」はちょうど一光三尊仏の御開扉期間とほぼ重なりました。つまり、三尊様のお助けを得られたからこそ、継承式から伝灯奉告法会までの時期をつつがなく過ごすことが出来たに違いありません。全国

の

高田派門信徒の皆様にも三尊様という強力な追い風を頂戴したからこそ、より一層のご理解・ご支援を賜ったことと存じます。改めて、三尊様と御開山聖人の御仏縁に心から感謝したいものです。

さて、時代は風雲急を告げております。とんでもない悪法が国会で続々と議決され、施行されています。私も仏教者はその無力感にさいなまれ

るばかりです。しかし、このまま手をこまねていて良いはずがありません。何らかの形で立ち上がり、仏教徒としての本分を発揮しなければなりません。

私も高田派には古来から「念仏高田」と形容されて来たように、お念仏に生きる信仰を体現して来た歴史があります。これこそが、私どもが取り戻し、突き進むべき道ではないでしょうか。お念仏が日本を変え、世界をも変えるのです。高田派独自の勤行に「引声念仏」があります。報恩講お初夜での「引声」には感嘆極まるものがありますが、高田派では普段から慣れ親しんでいるお勤めだと言えましょう。この荘重な「引声念仏」を

日本中に、そして世界中に広めたい、と思うのは私の個人的な妄想に過ぎないでしょうか。決してそんなことはありません。私どものお念仏は日本中に、そして世界中に乞い求められている、真の救いなのです。その自覚と誇りを再確認しなければなりません。

新法主に就任した私の使命は、やはり「念仏高田」を取り戻すことにありうかと存じます。しかしながら、浅学非才の身をもってしては、何も満足に成し遂げられません。阿弥陀様、三尊様、御開山聖人、高田派歴代の上人のご加護を賜ることは勿論ですが、それにプラスして、全国の末寺・門信徒の皆様のご理解・ご支援があつてこ

そ、初めて成し得ることです。

高田派は、御開山聖人の在世中から変わらぬご信心・習慣を今にまで伝える稀有な教団であり、それが私どもの誇りであることは今さら言うまでもありません。その最たるものが一光三尊仏に対する信仰、すなわち善光寺信仰です。今回の三尊様の御開扉も後半に来てかなり盛り上がりが見られ、「三尊様あつてこそ高田派」を実感できたことは、この上ない喜びでした。高田派の特徴をより広く発信し、周知してもらい、それを誇りとする教団にすることが私に与えられた責務です。門末の江湖のご理解・ご支援を切にお願いする次第です。

伝灯奉告に向けて

高田派の歴史は第十七世円猷上人の御書に「まさに今聖人より次第相承の安心、一器の水を一器

に寫すがごとく、絲毫を

へだてずして教化せしむるものなり」と示された

ごとく、御開山聖人より

七百余年、ひたすら聖人

のみ教えを継承する法脈

が息づいているのであり

ます。

今般、第二十五世の御

法主殿が法灯を受け継が

れたということは、真宗

高田派にとって、最大の

慶び事であります。本山

では、このお慶びを**伝灯**

奉告法会と名付けて、三

月二十五日より二十七日

まで大法要を執り行いま

す。

伝灯奉告法会は専修寺

の住職継承をお祝いする慶祝行事ですので、全寺院、檀信徒がごぞつてご参加いただき、この勝縁を盛大にお勤めいたしたいと思います。

さて、阿弥陀さまの光

は十方を照らして妨げが

ないけれど、念仏しない

ものまで照らされるの

でしょうか。『観経』で

は「念仏の衆生を攝取し

て捨てたまわず」といわ

れます。しかし、念仏し

ないものまで助けるとい

うことはありません。そ

れは、念仏しないものを

助けてみても、自覚がな

いのですから、助かった

ことがわからないからで

す。

私たちは「南無阿弥陀

仏」をいただくことに

よって何がわかるかとい

うと、自分の姿がわかる

のです。反対に一番恐ろしいのは「己知らず」です。いかに仏さまといえども「己知らず」を助ける力はないらしい。

自分を知らぬのを愚痴

といいます。自分を知

らぬ人は、何を与えら

れても満足ということ

がない。不足ばかりで

す。自分がわかった人だ

けが「ありがたい」とい

えるのです。ありがたい

ということとは、あること

難し、あるはずがない。

こんな私にこういうこと

があるということは、あ

り得ぬことだというのが

「ありがたい」というこ

とです。当たり前だとい

うのと反対です。

したがって自分を知ら

ぬ人間は、どれだけ与え

られていても、当たり前

現代の人々はどちらかというと「己知らず」にまします落ち込んでいくように感じられてなりません。だから、「ありがたい」という言葉がだんだん聞けないようになりました。

「自分を知る」という

ことは非常に大事なこ

です。お念仏は自分がわ

かることです。我々は念

仏によってわが身を知ら

されることを通して、い

よいよ念仏がわかってく

るのです。

聖人の和讃にも

十方微塵世界の

念仏の衆生をみそなわし

攝取してすてぎれば

阿弥陀となづけたてまつる

と、あります。誰が助か

るかといえば、念仏をす

る人が助かるのです。



宗務総長 安藤光淵

御巡教 続々



愛知五組浄泉寺にて

伝灯奉告法会の前後には多くの御巡教が予定されています。今年にはいり、愛知五組では二ヶ寺がそれぞれ御巡教を受けられ、また、三尊さまの出開帳も予定されています。

出開帳は、三月末に三尊さまが栃木本寺へお帰りになられますので、新たに予定を組んでいただくのは随分と先の話になってしまいます。御巡教はこの先も受けていただけますので、まだお受けになっていないところは、是非ご検討ください。

新法主殿を囲んで、一層の仏縁を深めていただければ幸いです。

伝灯奉告法会と、それに続く一光三尊仏御帰山法会にお参りください。

また会う日まで
三尊さま



愛知八組西光寺にて

三月三十一日より、三尊さまが本寺にお帰りになられるのに合わせて本山からお帰り団参が出発します。団体での申し込みは終了していますが、直接栃木の本山にて最後のお参りにお会いすることが出来ます。特に関東方面からは随分アクセスしやすくなっています。是非、最後のご縁にお会いください。

天拝秘仏 一光三尊仏

御復座開扉

平成二十八年四月一日〜三日

於 栃木県 本寺専修寺

WEB VERSION



文化財防火デーを目前にして、今年も大掛かりな防火訓練が行われました。前日の雪に心配をしましたが、当日は晴れ、消防車の放水に綺麗な虹が浮かんでいます。景色に浮かれることなく、参加者は真剣に防災意識を高めていました。

ひとがあつまる本山に

こんな行事がありました



年末は除夜の鐘をつきに多勢の人たちが訪れ、賑やかな年越しとなりました。煩惱を払うのではなく、改めて煩惱の多さに気づき、ただお念仏の道を歩んでいただければと思います。百八以上の鐘の音が寺内町に鳴り響く夜でした。



こども大会



宗旦古流



新成人のつどい



坊守会



法主殿御昇堂

今年も賑やかにお七夜・報恩講が一月九日から十六日にかけて、つとまりました。

お参りはもちろん、子どもたちや新成人といった若い人たちもたくさんお参りいただき、うれしい限りです。

莊嚴さと賑わいとを併せ持つお七夜さん、報恩講がこれからも大切にみなさまの普段の営みとともにあることを願う新年です。

WEB VERSION

「高田の釈迦三尊像」

釈尊シリーズ②



高田本山御影堂の正面
に山門があります。その
山門脇の急な階段を上が
ると内部に、釈迦三尊像
がご安置されているのを
御存知ですか。釈迦如来
を中心に、向かって右側
に智慧のはたらきをあら
わす獅子に乗った文殊
菩薩。向かって左側が白
象に乗った慈悲のはたら
きをあらわす普賢菩薩で

す。

この釈迦三尊像は普段
は公開されていません
が、毎年釈尊（釈迦如来）
の誕生日である四月八日
に釈迦三尊佛法会が勤ま
り、この日だけ一般公開
されています。

実は真宗寺院で山門の
内部に釈迦三尊像がご安
置されているのは珍し
く、なぜ高田本山にご安
置されているのかその由
来も謎のままなのです。
では、釈尊とお念佛の教
えとは、どのように関
わっているのでしょうか。

親鸞聖人は、釈迦（釈
尊）・弥陀（阿弥陀如来）
の名を並べ尊ばれていま
す。

ご和讃には「釈迦弥
陀は慈悲の父母 種々
に善巧方便し われら
が無上の信心を 発起
せしめたまひけり」

（善導讃十三首）と謳い、
『唯信抄文意』には「釈
迦は慈父、弥陀は悲母な
り。」と記されています。

人生において、不安、
迷い、畏れに立ちすくむ
人に、「迷うことなくこ
の道を往け」と勧め教え
られているのが、慈父な
る釈迦如来であり、そし
て生きるものすべてが救
われる浄土から「直ちに
来たれ」と喚びかけ続け
ておられるのが、悲母な
る阿弥陀如来であると教
えてくださっています。

そして親鸞聖人は、釈
尊が阿弥陀如来に帰命し
て、南無阿弥陀佛の名号
を称すべきを説きすすめ

られたとただかれまし
た。釈尊の教えにつな
がる道が南無阿弥陀佛の名
号なのです。

私たちは山門をくぐ
り、境内に入る時も、帰
る時も山門の前で頭を下
げます。釈尊の教えが
あつてこそお念佛の教え
に出遇わせていただいた
ご恩に対してなのでしょ
う。お寺にお参りする時
は、思い出してみませ
んか。（教学院第三部会）



四月八日
釈迦三尊佛法会

WEB VERSION

リレー法話

いのち

義明寺住職
高藤英光

高田幼稚園の誕生会でのお話です。

・・・(略)・・・

「幼稚園には月に一回お誕生会があるでしょ。」

「みんなにはお誕生日があるでしょ。」

「誕生日ってというのは君たちが生まれた日ってことでしょ。」

「お誕生日にはケーキを食べたり、プレゼントをもらったりしてお祝いする日でしょ。」

「じゃあ、なんでお祝いする

のかな。」

「それはみんなひとりひとりが生まれてきたことをみんなでするこぶためなんだ。」

「それはみんなひとりひとりに『いのち』があることをみんなでするこぶためなんだ。」

「そしてこの『いのち』はみんなのお父さんやお母さんからもらった大切なものなんだ。」

「そう、みんなは生まれてきたの。お母さんのおなかの中から生まれてきたの。おもちややブロックみたいに作ったものじゃないんだ。」

「作ったものは壊れても直せるけれど、生まれてきた『いのち』をもった生き物は死んじゃうと元には決して戻らないの。」

「そんな大切な『いのち』を

お父さん、お母さんからもらって生まれてきたの。」

「お父さん、お母さんもそのお父さん、お母さん、君たちからいうと、おじいちゃん、おばあちゃんから『いのち』をもらったの。おじいちゃん、おばあちゃんもそのお父さん、お母さんから『いのち』をもらったの。」

「そんな大切な『いのち』をもらってこれて『よかったね』って教えてくれたのが親鸞聖人なんだ。」

「手をあわせてお参りするのには『いのちの大切さを教えてくれてありがとう』っていうことなんだよ。」

・・・(略)・・・

私たちは忘れていませんか。いただいた『いのち』であることを。授かった『いのち』であることを。

WEB VERSION

光三尊佛

御復座開扉

4月1日・2日・3日

寺山 尊光寺

4/17
はなまつり

写生大会もあるよ！
3/19-4/3

おしゃかさまの誕生日
そうさんと行列しよう！！

★釈迦三尊仏法会では普段ご覧いただけでない山門上層で参加することが出来ます。階段が急ですので気をつけてお上りください。

★食堂（用度講）は修理の為、当面、宿泊対応ができません。

高田派婦人連合大会

はなまつり

釈迦三尊仏法会

一光三尊仏御帰山法会

三月二十八日～三十日

伝灯奉告法会

三月二十五日～二十七日

写生大会

三月十九日～四月三日

讚佛會

三月十七日～二十三日

●イベント案内